



○ iPadの使い方と情報モラル、自己調整の力を育てる

ICTの授業では、iPadの使い方だけでなく、情報モラルについても学んでいきます。先日の授業では、「どのように使うとよいのか」について、クラス全体で考える時間をもちました。

○ iPadは何のためにある？

まず大切にしているのは、「iPadは何のために学校から貸し出されているのか」という考え方です。子どもたちに尋ねると、「学習のため」「勉強のため」「かしこくなるため」といった意見が多く出ました。その通りで、iPadは学習をよりよくするために活用しています。教師も、学びが深まると考えられる場面で使用していきます。

一方で、学習のためと分かっても、ゲームなどに使ってしまうこともあります。そこで、「どのようなときに使ってよくて、どのようなときは控えるべきか」を子どもたちと一緒に考えました。

たとえば、「スクラッチのゲームはどうだろう？」という問いが出ました。考えを深めていく中で、「自分の学びにつながっているかどうか」が大切な判断の基準になる、という意見が出ました。同じゲームでも、ただ遊ぶだけなのか、自分でつくるために試しているのかでは、大きな違いがあります。自分の目的を考えながら使うことが大切だと、子どもたちと共有しています。

○ 体と心の健康を守るために

ゲームや動画などは、とても楽しく感じられるようにつくられています。そのため、つい長い時間使ってしまうことがあります。

はじめは短い時間でも、だんだんと時間が長くなってしまったりもします。気づかないうちに使いすぎてしまうことがないように、使い方を考えていくことが大切です。

授業の中でもそのような話をすると、子どもたちは「気をつけたい」と考える様子が見られました。



○漢字学習への取り組みと、その先にある「学ぶ力」について

今週の漢字学習では、多くの子どもたちが熱心に取り組む、ご家庭でも温かく見守っていただきありがとうございます。同じプリントに繰り返し取り組むことには、単に「字を覚える」以上の大きな意味があります。



1. 「自分を知る」ことから始まる自己調整の力

同じ問題に何度も向き合うことで、自分が「どの字が書けて、どの字が書けないのか」が一目瞭然になります。わかっている字をより確実にし、わからない字を明らかにしていく。このプロセスを繰り返すことで、自分自身の学習をコントロールする「自己調整」の力が育っていきます。

2. 「できた！」という実感が自信に繋がる

「前回よりも書けるようになった」という成長が目に見えるため、達成感を得やすいのがこの学習法の特徴です。例えば、42点満点中41点だった子が「あと1問だったから、もう一回やりたい！」と自ら再挑戦する姿も見られました。この「あと少しで完璧になれる」という手応えが、子どもたちの意欲を大きく引き出します。

3. 一生モノの「学習方法」を身につける

学年が上がるにつれ、学習内容はより高度になります。今のうちに自分なりの学習スタイルを確立しておくことで、将来、自分自身の力で学びを進めていけるようになります。

私たちは、この漢字学習を単なる知識の習得にとどめず、試行錯誤しながら自分を高めていく「学び方」を身につける貴重な機会にしていきたいと考えております。引き続き、励ましの声をかけていただければ幸いです。